

## 東京都港区 MCS地域包括会計事務所 第8回 協議会 住居とケアの将来

仲秋の候、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。10月14日に港区の丸山定夫先生が第8回目となる地域包括会計事務所協議会を開催しました。

まず、今回から初めて参加された方もいたため、今回の協議会を立ち上げた経緯や前回までの活動内容、今後の活動方針などを丸山先生より説明がありました。そして、今回のテーマでもある住居について、社会保険旬報の資料より「住居とケアの将来と制度構想」を活用し、今後の日本、特に都市部が抱える問題点等について参加者間にて協議が行われました。後期高齢者の急増と進む単身化、居住が不安定な民間借家居住の高齢者、低所得高齢者が入居可能な住まいの不足、住居確保のための主要施策の比較、生活支援サービスの費用負担、生活保護制度と賃貸住宅市場について研究を行い、今後、都市部の高齢者にどう対応していくのか、家族も含めたサポート活動、地域のコミュニティに早くから参画することの重要性を確認しました。それに伴って、今回から参加となった不動産業の方より、麻布地域の住居（空屋）の現状や、入居者の状況などが報告されました。さらに古い建物の再利用方法などの事例などが紹介され、今後の活動支援についても話ができました。また、前回に引き続き、大和ハウス工業株式会社、積水ハウス工業株式会社より最新の情報提供（相続税対策やリノベーション物件等）がされ、各社の行っている活動の紹介がされました。



最後に丸山先生より公的保険外の健康産業について、資料を見ながら説明を行いました。地域ヘルスケア産業支援ファンドの紹介やその仕組み、経産省でも健康産業事業者に資金を低利で融資する制度を日本政策金融公庫に新たに導入予定であることの説明を行い、民間企業を巻き込んだ取り組みの重要性について説明しました。こういった流れのある中での地域包括会計事務所の役目やそこに向けたビジネスチャンスについて、参加者間にて共通の意識をもち今後の協議会につなげていければという事で今回の協議会は終了しました。次回は、11月12日に開催予定です。

